

# 家庭 304 「子どもの発達と保育 ～育つ・育てる・育ち合う」

指導計画（シラバス）案 【2単位 70時間】

目 標	子どもの発達の特徴や発達過程，保育などに関する知識と技術を習得させ，子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。
-----	---

学期	月	章	単元	項目	時間	学習のねらいと目標
1 学期			保育を学ぶにあたって		1	・これから保育の学習をはじめるとして，保育を学ぶ意味について考える。
	4	第1章 子どもの発達の特性	①生涯発達における乳幼児期の重要性	1. 乳幼児期の大切さ	2	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し，生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・人との「かかわり」の大切さを知る。
				1. 発達を支える環境 2. 発達と環境 3. 多様な環境の中で育つ子ども	2	・子どもは，さまざまな環境の影響を受けながら発達していくことを知る。 発達最近接領域について理解する。
				1. 保育にみる発達観と児童観 2. 子どもが自ら育つ「発達」へ 3. 変わってきた「子ども」への関心	3	・子どもが保護・養育される権利をもち，尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。 ・日本の児童観の変遷と，社会環境や法制度のしくみについて理解する。
	5	第2章 子どもの発達過程	①身体発育と運動機能の発達	1. 発育と発達と成長	2	・身体発育と運動機能の発達には一定の順序と方向性があることを知る。 ・一方で，個人差が大きいことも理解する。
				1. 乳幼児期の発育の特徴 2. 乳幼児期の生理的特徴	4	・乳幼児期の発育について，各部位別の目安や評価法を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴についても知る。
	6	第3章 子どもの発達過程	②乳幼児期のからだの発育	1. 乳幼児期の発達 2. 乳幼児期の感覚・運動機能の発達	5	・乳幼児期の発達と，環境の関係を理解する。 ・人は生まれながらにしてさまざまな感覚機能を持っている「社会的な存在」であることを認識する。
				1. 人との絆（愛着関係）の形成 2. 自立と対人関係	4	・愛着関係の形成過程を学び，その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。 また，家族・きょうだい・友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。
	7	第3章 子どもの発達過程	③乳幼児期の発達の特徴	1. 情緒の発達 2. 認知機能の発達	2	・子どもと大人ではものとのとらえ方に違いがあることを知る。言葉の発達の順序について理解する。
				1. 子どもの成長についての視聴覚教材を使用して確認する。 ・自分の成長記録をつくってみる。	2	
1. 大人の役割は 2. 養護の具体的な方法 3. 基本的な生活習慣の習得 4. 社会的な生活習慣の習得				3	・養護の必要性・目的を理解し，発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや，注意点について知る。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し，その具体的な内容について知る。	
9	第3章 子どもの生活	①子どもの健康と生活	1. 情緒の発達 2. 認知機能の発達	2	・子どもと大人ではものとのとらえ方に違いがあることを知る。言葉の発達の順序について理解する。	
			1. 大人の役割は 2. 養護の具体的な方法 3. 基本的な生活習慣の習得 4. 社会的な生活習慣の習得	3	・養護の必要性・目的を理解し，発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや，注意点について知る。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し，その具体的な内容について知る。	
2 学期			視聴覚教材使用		2	・子どもの成長についての視聴覚教材を使用して確認する。 ・自分の成長記録をつくってみる。
			沐浴実習		2	・沐浴人形を使い，沐浴の実習を行う。

学期	月	章	単元	項目	時間	学習のねらいと目標
2学期	10	第3章 子どもの生活	②子どもの食事	1. 栄養と食生活	4	・ 子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・ 食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割をもつことを認識する。
				2. 乳児の食事		
				3. 離乳		
				4. 幼児の食事		
			幼児食実習	2	・ 幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。	
	5. 幼児の食事の実態と問題点					
	11	第3章 子どもの生活	③子どもの衣服	1. 衣服の役割と条件	2	・ 乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・ 衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながる可能性があること知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・ 適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。
				2. 衣服の選択		
				3. 衣服の調節		
				4. おむつ		
				5. 寝かせ方		
	④子どもの遊びと生活	1. 子どもの遊び	3	・ 子どもにとって「遊び」は、豊かな心や多くの能力を獲得するために大切であることを知る。 ・ 子どもの情操・感性・知的探究心などを豊かにするために適切な児童文化財を選択できるようになる。		
2. 児童文化財						
3. 子どもに身近な児童文化財						
4. 子どもの生活と住環境						
12	保育実習	5	・ 保育実習の注意事項を確認し、おもちゃ作りに挑戦する。			
3学期	1	第4章 子どもの保育	⑤子どもの健康管理	1. 子どもの健康を守る	5	・ 子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 ・ 子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 ・ 子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 ・ 住まいに潜む危険について理解し、家や学校など身近な場所の危険についても考えることができる。 ・ 子どもの心の健康について理解する。
				2. 子どもの病気		
				3. 病気の子どもの看護		
				4. 病気の予防		
				5. 現代の子どもの健康		
				6. 住まいと子どもの危険		
				7. 応急処置と救急用品		
				8. 心の健康		
	①保育の意義と目標	1. 保育とは何か	2	・ 人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考える。 ・ 保育が一時的な行為ではないことを理解し、子どもと保育者の相互成長の視点に気付く。		
		2. 保育の目的と目標				
	②保育の方法	1. 子どもの健やかな育ちを支える	3	・ 子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・ 発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。		
		2. 発達過程に応じた保育				
	2	保育実習	4	・ 保育の方法を確認しながら子どもと一緒に遊び、反応を確認する。また、自分自身の成長も確認する。		
	3	③保育の環境	1. 子どもが育つ環境の変化	4	・ 子どもが育つ現在の環境にはどのような問題点があるのかを知る。 ・ 家庭での保育と集団保育のそれぞれの意義を学び、課題について考える。	
			2. さまざまな保育の場			
①子どもの福祉		1. 児童福祉の理念と関係法規・制度	2	・ 子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。 ・ 児童福祉法や児童福祉関連施設の概要について理解する。		
		2. 福祉にかかわる施設				
②子育て支援		1. これからの子どもの福祉	2	・ 男女共同参画社会における、これからの福祉について考える。 ・ 母親の育児負担を減らす為にならぬことができるのか、周囲の人間と社会の両面から考える。		

家庭 304 「子どもの発達と保育 ～育つ・育てる・育ち合う」

評価規準例 【2単位 70時間】

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	子どもを生き育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけている。	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身につけている。
<b>第1章 子どもの発達の特性</b>				
①生涯発達における乳幼児期の重要性 ②発達と環境 ③発達観・児童観とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間の発達について、自分自身の問題として考える姿勢をもっている。</li> <li>●子どもをどのような存在としてみるか、自分なりの考えをもっている。</li> <li>●子どもを守るための人権意識や倫理感を重視する姿勢がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間の一生をライフサイクルとしてとらえ、人のかかわりがいかに大切かを認識している。</li> <li>●どんな状況に生まれた子どもでも、一個の人格をもつ人間として尊重されなければならないことが当然と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会の人間観の変遷がそのまま児童観の変遷に反映されていることを、例を挙げて示すことができる。</li> <li>●外国と日本の児童観の変遷に共通性があり、その背景に貧困や戦争などの社会情勢が影響していることを説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもを取り巻く環境にはさまざまなシステムがあることを理解し、そのかわりの大切さを理解している。</li> <li>●新生児・乳幼児の能動性の内容と、それらの発達への影響について理解している。</li> </ul>
<b>第2節 子どもの発達過程</b>				
①身体発育と運動機能の発達 ②乳幼児期のからだの発育 ③乳幼児期の発達の特徴 ④人間関係の発達 ⑤心の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>●将来親や保育者になったときに必要な知識を学ぶ、という姿勢をもっている。</li> <li>●乳幼児の発育のめざましさに対して、驚きや知的な好奇心をもって学習に取り組んでいる。</li> <li>●乳幼児の精神発達について、自分自身の子ども時代のことを調べるとして、具体的に考える姿勢をもっている。</li> <li>●子どもの発達により環境は何かということについて、積極的に考えて学習に取り組んでいる。</li> <li>●心の発達過程の複雑さ、多様さに対して、驚きや知的な好奇心をもって学習に取り組んでいる。</li> <li>●子どもの精神発達に対する親の役割の重要性について、具体的なイメージを描きながら学んでいる。</li> <li>●自立心や社会適応力の形成について、自分自身の経験をふりかえりながら学習を深めようとする姿勢がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「子どもが育つ」ことの重要な点は、人間として豊かに育つことにあることを認識している。</li> <li>●発育の個人差を考慮することができる。</li> <li>●心の発達については、感覚能力、運動機能、言語、知的能力、社会性等、いろいろな側面からとらえる必要があることを認識している。</li> <li>●乳幼児期の知的能力の発達、自我の芽生え、きょうだいや仲間関係でのさまざまな経験が、自己主張と自己抑制のバランスを学ぶことになるという認識をもち、自分の場合はどうであったかを思い描ける。</li> <li>●乳幼児期の基本的情緒の形成には、愛情で結ばれた親と子の絆が重要であるという認識を深めている。</li> <li>●子どもの成長には、家庭だけでなく、家庭環境を支える地域や社会の支援体制も重要であるという考え方ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発育・発達を支える因子を理解し、その例をいくつか挙げることができる。</li> <li>●乳幼児の生理的特徴が成人と大きく異なることを具体的に説明できる。</li> <li>●自分の乳幼児期の発達について、家族へのインタビューなどの手法を用いて調べることができる。</li> <li>●発達の順序性、方向性について、具体例を挙げながら説明することができる。</li> <li>●発達の過程で子どもができるようになることを、月齢や年齢に応じて挙げるができる。</li> <li>●子どもにとっての安全基地としての親の役割を説明することができる。</li> <li>●自立心や社会適応力の形成と欲求不満耐性の関係について説明でき、欲求不満耐性の育て方についてまとめたり発表したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの成長は身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。</li> <li>●乳幼児の発育が順調なものかどうかを知る方法を理解している。</li> <li>●新生児の反射運動について理解している。</li> <li>●粗大運動、微細運動の発達過程について理解している。</li> <li>●精神発達は、たえず次の段階への準備を行いながら進む、連続性のあるものであることを理解している。</li> <li>●精神発達が、子どもの素質と環境の相互作用によるものであることを理解している。</li> <li>●新生児でも視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚などの感覚機能はすでに発達しており、これらが言語・知的能力・好奇心等の発達にも関係することを理解している。</li> <li>●発達の共通性と個別性（個人差）について理解している。</li> <li>●発達の方向性と順序性について理解している。</li> </ul>
<b>第3節 子どもの生活</b>				
①子どもの健康と生活 ②子どもの食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児の養護について、実際に自分が世話を行う立場になったときのことを考えながら、積極的に取り組んでいる。</li> <li>●子どもは保育者の養護なしでは生きていけないということを理解し、保育者としての責任を自覚しながら学習しようという姿勢がある。</li> <li>●子どもの生活を学ぶ中で、さまざまな課題や問題点を考えようという態度がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児期の栄養と食生活について、学童期や青年期ひいては人の一生に影響する重要性をもつことに気づき、考えを深めている。</li> <li>●乳汁栄養から離乳食、そして幼児食へと進む発育・発達に応じた食事の意味を考慮することができる。</li> <li>●食事が生活習慣の形成や心の発達に及ぼす影響を認識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児の養護の必要性や目的をふまえ、その発達段階に応じた適切な養護の方法や生活援助のための方法が選択できる。</li> <li>●乳幼児期の食生活の特徴を把握し、説明することができる。</li> <li>●乳汁栄養の種類と母乳栄養の利点について説明できる。</li> <li>●離乳食の献立を立案することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの養護の必要性と目的について理解している。</li> <li>●子どもが健康な状態とはどのような状態か理解している。</li> <li>●子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。</li> <li>●乳幼児期の食生活の特徴を理解している。</li> <li>●乳幼児に必要なエネルギーと栄養素について知っている。</li> </ul>

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
③子どもの衣服 ④子どもの遊びと生活 ⑤子どもの健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育者としてどのようにかわるのがよいか、理想像を考えながら学習する姿勢をもっている。</li> <li>●健康な生活の大切さについて、自らの日常生活に結びつけて考えを深めている。</li> <li>●子どもの世話の仕方だけでなく、さまざまな世話の背景にある意義について考える姿勢がみられる。</li> <li>●子どもにとっての遊びの意義を、自らの体験に関連させて考えることができる。</li> <li>●人とのかわりの意義について、具体的に考える姿勢がみられる。</li> <li>●子どもが安全に暮らすための住環境について考えることができる。</li> <li>●少子化の原因や影響について、自分なりの意見を考えようとする姿勢がみられる。</li> <li>●子どもの生活をとりまく環境について、改善の方向性や具体的な改善策を考えながら学習に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●衣服の役割には、身体を保護する目的と社会的な目的があるが、子どもの場合は大人と比べてどこに重きがおかれるかを認識している。</li> <li>●遊びが、子どもにとって新しい自己実現のための創造活動を促す原動力になる、という考え方をもっている。</li> <li>●子ども自身の表現活動を活発にするために何が必要か、という見方ができる。</li> <li>●大人との関係・子ども同士との関係から育つものは何か、を考えることができる。</li> <li>●子どもの病気や異常の早期発見は保育者の日頃の観察が大切になるという認識をもっている。</li> <li>●乳幼児期の基本的生活習慣や社会的生活習慣の習得について、その意義や重要性を認識している。</li> <li>●成長とともに行動範囲が広がり、事故の危険が大きくなるという認識をもっている。</li> <li>●少子化による影響について、メリットとデメリットを考慮することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼児食をつくることができる。</li> <li>●食習慣や食事マナーの形成に関して、問題となるような例を挙げることができる。</li> <li>●乳幼児に適した被服の材料、型、衣生活の設計について理解し、選択することができる。</li> <li>●発育や生理的特徴に合った寝具が選択できる。</li> <li>●さまざまな児童文化財のなかから、子どもの発達段階にふさわしいものを選択することができる。</li> <li>●伝統遊びや手作りおもちゃの製作の計画が立案できる。</li> <li>●子どもの病気の特徴を説明できる。</li> <li>●疾病予防のために何をすればよいかを説明できる。</li> <li>●事故の予防のための工夫について説明することができる。また、そのための住宅の工夫を説明することができる。</li> <li>●事故の応急処置を説明することができる。</li> <li>●子どもを取り巻く環境の変化について説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●間食の必要性を理解している。</li> <li>●乳幼児に必要な衣類の例（枚数と調節法）について理解している。</li> <li>●児童文化、児童文化財の定義を理解している。</li> <li>●自立への手助け（しつけ）について、心がけるべきことがわかる。</li> <li>●子どもの健康状態の観察のポイントを理解している。</li> <li>●子どもの健康は、免疫力や抵抗力、衛生環境・季節や気候の変化に影響されやすいということを理解している。</li> <li>●子どもの主な病気と看護の方法を理解している。</li> <li>●主な予防接種の種類を理解している。</li> <li>●子どもに多い事故と応急処置の方法を理解している。</li> <li>●子どもにとって危険な箇所が住宅内にも数多くあることを理解している。</li> <li>●少子化の問題点について正しく理解している。</li> <li>●少子・高齢化社会では社会全体で子育てに携わる必要があるということを理解している。</li> </ul>
<b>第4章 子どもの保育</b>				
①保育の意義と目標 ②保育の方法 ③保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育の意義について、自分自身が親になることを考えるなど、自分の問題として捉える態度がみられる。</li> <li>●保育のめざすものは何か、自分自身の人生観と結びつけて考えようという姿勢がみられる。</li> <li>●現代の保育や家庭を取り巻くさまざまな課題について、問題意識を感じながら学習を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもが「育つ」過程を理解する中で、子どもの成長の本質を考慮することができる。</li> <li>●家庭と保育所・幼稚園が信頼し合い、協力して子どもを育てることの大切さを認識している。</li> <li>●月齢・年齢に応じた保育者のかかわり方を考えることができる。</li> <li>●現在の保育所・幼稚園に求められていることについて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育者としての具体的な援助の方法を説明することができる。</li> <li>●保育のめざす「生きる力」について、自分自身の考えを交えながら話し合いをすることができる。</li> <li>●家庭保育の現状と課題について、新聞やテレビ、その他の情報を調べるなどして、自分の意見をもつことができる。</li> <li>●自分たちの地域での家庭と保育所・幼稚園などの協力について調べ、発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育の目標と保育者から子どもへの働きかけの重要性を理解している。</li> <li>●家庭保育と集団保育の役割を理解している。</li> <li>●保育所と幼稚園の違いを理解している。</li> <li>●現代の家庭保育の現状と課題を理解している。</li> <li>●ファミリー・サポート・センターなどの「子育て支援」の動きについて理解している。</li> </ul>
<b>第5章 子どもの福祉と子育て支援</b>				
①子どもの福祉 ②子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童福祉の必要性について、具体的な問題を通して考えようとする姿勢がみられる。</li> <li>●法律や制度を実生活に結びつけて学ぼうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもを保護の対象とするだけでなく、主体的な存在としてとらえることができる。</li> <li>●児童福祉の理念がさまざまな制度に生かされていることを認識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの幸福の実現に必要な児童福祉について、法律や制度の整備面から考察することができる。</li> <li>●福祉にかかわる主な施設の役割について説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童福祉の理念と特徴を理解している。</li> <li>●児童福祉を実現するための法律・制度について理解している。</li> </ul>